

2024 年度 応用地形判読士資格検定試験（通算第 12 回）

〔実技試験問題〕

実技試験の注意事項

- (1) 実技試験の実施時間は、12 時 30 分から 15 時 30 分までの 3 時間とする。
- (2) 試験開始後 1 時間は、退場を認めない。
- (3) 机上には、筆記用具など（鉛筆またはシャープペンシル、消しゴム、定規、三角スケール、色鉛筆、軟質色鉛筆、鉛筆削り、拡大鏡、実体鏡）、受験票、試験問題用紙、答案用紙、時計以外のものは置かないこと。
- (4) 通信機器類および電子機器類（ウェアラブル端末（例えばスマートウォッチ）などを含む）の使用は一切禁じる。また、携帯電話など音を発生させる機器類は、必ず電源を切ること。
- (5) 試験の開始にあたり、試験問題の欠落や印刷に不鮮明な箇所がないことを確認すること。
- (6) 解答は、図示を求める問題に対しては〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕に、論述を求める問題に対しては〔論述式答案用紙〕に、それぞれ記入すること。
- ☆ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔論述式答案用紙〕には、受験番号を必ず記入すること。
受験番号が未記入であったり間違えている答案は、採点からすべて除外し、不合格とする。
- (7) 指定した読図範囲について、問題にしたがい読図すること。実体視できる範囲については、読図に加えて空中写真を判読すること。
これらの結果は、その地形図上に図示すること。図示するにあたり、地形種の輪郭は明確に記入すること。ただし、地形種は、記号、色、模様などにより判別できる程度としてもよい。
- (8) 地形図に記入する地形判読記号、色、模様などは、特に定めない。ただし、使用した地形判読記号などは、別に配布してある〔記号凡例用紙〕に記入すること。
〔記号凡例用紙〕は、問 1. と問 2. それぞれ 1 枚ずつある。間違えないよう使用すること。
- (9) 論述式の解答は、印刷してあるマス目にしたがって、楷書で読みやすく記入すること。
- (10) 試験問題には、国土地理院発行の地形図と空中写真を使用している。地形図は、注記がある場合を除いて、上を北としている。
- (11) この注意事項の説明後は、原則として質問に応じない。
- (12) 試験終了後、この問題用紙は持ち帰ってもよい。
ただし、①地形図、②記号凡例用紙、③論述式答案用紙、④空中写真は、机の上に残すこと。

◆ 発熱、咳、倦怠感などの症状があるときは、直ちに監督員に申し出ること。
状況に応じ、一旦退席、または試験の辞退をお願いすることがある。

☆ 〔地形図〕と〔記号凡例用紙〕および〔論述式答案用紙〕には、

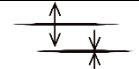
受験番号 を必ず記入すること。

問 1. 地形図に実線で示した範囲（作図範囲 A）について、地形図読図と空中写真判読によって地すべり地形を抽出し（作図範囲を示す枠線にかかる地すべり地形は除く）、その結果を地形図上に図示しなさい。その際、地すべり移動体の分化に着目して、地すべり地形の発達過程がわかるような分布図を作成しなさい。

地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号凡例用紙 **〔問 1 専用〕**〕に記入しなさい。

問 2. 地形図に点線で示した範囲（作図範囲 B）のうち段丘および低地の分布域について、地形図読図と空中写真判読によって地形を分類しなさい。さらに変動地形を抽出して、それらの結果を地形図上に図示しなさい。

地形分類記号などは任意に設定して、別紙の〔記号凡例用紙 **〔問 2 専用〕**〕に記入しなさい。

参考：国土地理院の「都市圏活断層図」で使用されている変動地形の記号の例			
	活断層		縦ずれ
	活断層（位置やや不明確）		活褶曲
	活断層（活撓曲）		地形面の傾動方向
	活断層（伏在部）		変位した谷線
	横ずれ		

問 3. 地形図の全域から得られる地域特性を踏まえ、この地域で発生する可能性が高い自然災害現象（地すべりを除く）のうち異なる災害種を 2 つ挙げ、それぞれについて、発生のおそれがある地点または地域（主要なものだけでよい）を地形図中に記号や番号で示すとともに、その地形的・地質的な根拠を〔論述式答案用紙〕に合計 800 字を超えないように記述しなさい。

<参考>

地形図 国土地理院「電子地形図 25000」／出題範囲は図示の緯度・経度を参照

空中写真 整理番号：SI-75-1X ／ コース番号：C2 ／ 写真番号：6, 7.

整理番号：MSI-2003-1X ／ コース番号：9 ／ 写真番号：10, 11, 12.

134° 9' 50.03"
34° 8' 9.45"



134° 14' 3.81"
34° 8' 9.46"



134° 9' 50.15"
34° 3' 37.56"

134° 14' 3.70"
34° 3' 37.56"

1. 投影はユニバーサル横メルカトル図法、座標帯は第53帯、中央子午線は東経135°
2. 図郭に付した短線は経緯度差1分ごとの目盛
3. 高さの基準は東京湾の平均海面
4. 等高線及び等深線の間隔は10メートル
5. 磁気偏角は西偏約7° 40'
6. 図式は平成24年電子地形図25000図式
7. 本図上部の枠内には、この地図の購入者が入力したものをそのまま記載しています

令和6年 5月27日 調製

著作権所有兼発行者 国土地理院

134.20-34.10-A3-t-20240527-125708-0000